

平成 2 1 年度 実施事業	事務事業名 子育て支援センター運営事業
-------------------	----------------------------

区分	番号	名 称
章	1	やさしさと共生するまち
節	1	安心して子どもを生み育てられるまちをつくる
施策	1	子育ての不安と負担の軽減
小分類	1	地域での子育て支援
主要な施策	1	子育て支援センターの整備・充実
事務事業番号	001	事務事業コード 11111001 事業開始年度 平成 1 2 年度 事業終了年度 平成 - 年度

会計種別 一般会計	予算書上の事務事業名 子育て支援センター運営事業
-----------	--------------------------

部 名 保健福祉部	グループ名 子育てG
-----------	------------

統合前または名称変更前の事業名

事務事業の目的と成果

対象	(何を対象にまたは誰を対象にした事務事業なのかを具体的に記載ください) 就学前の乳幼児とその保護者
手 段 (事業の内容・活動)	(目指す姿を実現するためにどのような手法で行うのか、事業の内容を具体的に記載ください) 週3日(月・水・金)をセンター開放日、週2日(火・木)を行事日に設定し、子育てに関する相談全般や遊びなどの指導を、中央子育て支援センターと登別子育て支援センターの2か所で実施する。 育児相談件数：267件(中央214件、登別53件) センター開放日利用者数：9,538人(中央4,567人、登別4,971人) 子育て講座参加者数：202人(中央166人、登別36人) あそびの紹介参加者数：869人(中央332人、登別537人) 保育所開放参加者数：474人(5保育所) 父親開放参加者数：106人(登別のみ実施) 移動子育て支援センター参加者数：625人(若草放課後児童クラブ226人、鷺別公民館399人) その他(育児サークル支援、おにたま文庫貸出、各種情報紙発行) 人数は、親子の合計で、延べ人数を表します。
目指す姿(成果)	(事務事業を実施することでどのような状態にしたいのか具体的に記載ください) 保護者の育児不安の解消を図るとともに、親子のふれあいや親子同士の交流の場を提供することで子育て家庭の支援を図っていく。
根拠法令等	(事業を実施する際、根拠となる法令・条例・規則・要綱等の名称をすべて記載ください) ・登別市子育て支援センター条例

指標の推移

区 分		単位	区分	21年度 実績	22年度 目標	23年度 目標	24年度 目標	25年度 目標
成果 指標	子育て支援センター設置数	か所	目標値	2	4	4	4	4
			実績値	2	/	/	/	/
	開放日利用者数	人	目標値	10,500	13,000	13,000	13,000	13,000
			実績値	9,538	/	/	/	/

事業費の推移

区 分			単位	21年度 決算	22年度 当初予算	23年度 見込	24年度 見込	25年度 見込	23～25年度 合計
事業の 財源内訳	国庫支出金	名称	千円						0
	道支出金	名称 特別保育事業推進費補助金（地域子育て支援拠点事業）	千円	367	519	9,988	9,988	9,988	4,983
	地方債	名称	千円						0
	その他	名称	千円						0
	一般財源	名称	千円						0
合 計				367	519	9,988	9,988	9,988	4,983
（参考） 上記事業を実施する上で 必要となる人件費			職 員	千円	13,370	14,010			
			嘱 託 員	千円	0	0			
			臨時職員	千円	2,739	2,759			
			合 計		16,109	16,769			

担当グループによる事務事業評価の内容

1. 事務事業の妥当性について			
今後市が事業主体として実施していくことは妥当ですか？	→	妥当である 妥当ではない	→ 妥当である理由、妥当ではない理由は何ですか？ 本事業は、北海道の補助事業（間接）であり、子育て支援の施策には欠かせない。
2. 事務事業の成果について			
成果はあがっていますか？	→	成果があがっている どちらかといえばあがっている 成果があがらない	→ 成果があがっている理由、あがらない理由は何ですか？ 開放日をはじめ各種催し物の利用が年々増加しており、特に育児相談が前年比約6割と大幅に増加しているため。
3. 事務事業の成果向上について			
成果を向上させることはできますか？	→	大きく向上させることができる 少し向上させることができる 向上させることはできない	→ どのようにして向上させますか？ 向上させることができない理由は何ですか？ 現在、設置済みの支援センターは幌別地区と登別地区の2か所だが、施設規模などからこれ以上の利用拡大は難しい。財政的な問題があるものの富岸から鷲別方面に最低1か所を新設することで、成果の向上が可能と考える。
4. 事務事業の経済性・効率性について			
成果を落とさずにコスト（予算や人工、所要時間）を削減することはできますか？	→	削減できる 削減できない	→ どのような方法でコストを削減しますか？ 削減できない理由は何ですか？ 当該事業費は、物件費のみで構成されているが必要最小限に留めているので削減は難しい。また、総事業費の大部分を占める人件費も同様だが、単に金額的な問題で捉えるなら業務委託等の推進により多少なりとも効果は得られると考える。

担当グループによる評価

拡大	左記の評価を選択した具体的な理由（根拠）	近年は、少子化等で核家族化が顕著に進行しており、これに伴い保護者の育児力の低下が指摘されています。また、相談相手がいないため母親が孤立し、虐待に繋がるケースもあることから、本事業は家庭内保育者向けの子育て支援策として、引き続き、必要な事業であるとともに、未設置地区の鷲別方面への新設を検討すべきと考えます。
-----------	----------------------	---

総合的な評価（当該事務事業の方向性）

拡大	備考
-----------	----

評価の種類

- 拡大（事務事業の規模や経費を拡大し、これまで以上に強力に推進する事務事業）
- 維持（現状の対象や目指す姿、手段などに変更が無く、今後も実施する事務事業）
- 改善（現状の手段や経費などを見直し、成果指標の向上等を行う必要がある事務事業）
- 休止（暫定的に休止する事務事業）
- 終了（当初から決められていた事業期間が終了または成果品等が完成し、目的を果たした事務事業）
- 廃止（当該事務事業の予定を変更し、廃止する事務事業）